

## 環境に配慮した電力会社の選び方 ポイント

環境に配慮した電力会社かどうかを判断するには、電源構成を知ることが必要です。電源構成は、電源調達や電源の中身で判断できます。

### 電源調達（どこから電気を仕入れるか）の種類

1. 自社電源・・・自社の発電所で作った電気。
2. 相対契約・・・発電所を持っている取引先から電気を買うこと。
3. 市場取引・・・電気を売りたい電力会社と電気を買いたい電力会社が電気を取引する競りのようなもの。買った電気は通常どこの電気かわからない。
4. バックアップ・・・電力会社が消費者に売るための電気を一定量確保するために、一般業者（京都では関西電力）と長期の卸売 契約を締結して賄う電気のこと。

### 電源（何を使って発電したか）の種類

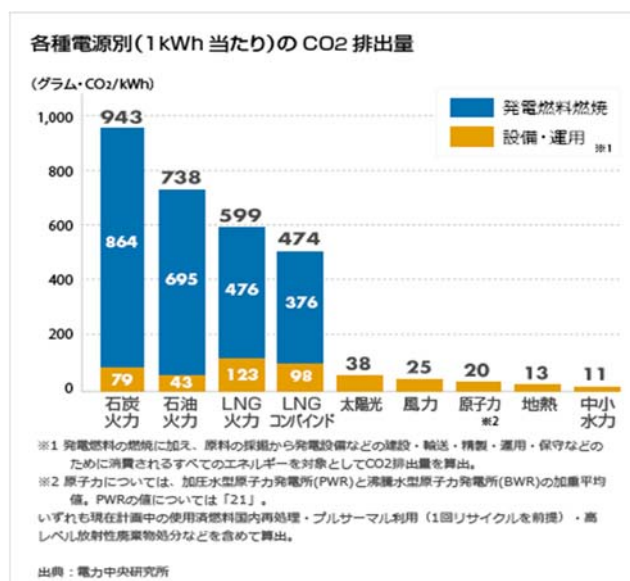
電気の中身は、石炭火力、石油火力、LNG（天然ガス）火力、原子力、水力、再生可能エネルギー（太陽光、風力、バイオマス、小水力、地熱など）により発電された電気があります。

## ★選び方のポイント

### 1. CO2 排出係数

CO2 排出係数が高いと気候変動に悪影響を与えます。CO2 排出が高いのは、次の通りです。

石炭>>>石油>>LNG>>>>>太陽光>風力>原子力>地熱>小水力（電気事業連合調べ）



(関西電力 HP より)

(注意点) 排出権クレジットを購入することで、みかけの CO2 排出係数を下げることができます。仮に CO2 排出係数の高い石炭で 100%発電していても、その分のクレジットを購入することで CO2 ゼロをアピールすることも可能です。

### 2. 放射性物質

原子力は、CO2 排出係数が低いですが、処理に 10 万年もの時間がかかるとも言われ、いまだ処理方法が確立されていない放射性廃棄物が出ます。ドイツでは CO2 排出係数と合わせて放射性廃棄物の量を表示することが義務化されています。

### 3. 再生可能エネルギーの比率

再生可能エネルギーは自然に多く存在し、枯渇しづらく、短期間での再生が可能のために環境への負荷が小さいエネルギー源です。太陽光や風などは基本的に永続的に利用でき、ランニングコストも安いと言えます。

(注意点) 再生可能エネルギーの木質バイオマス発電には、森林を乱伐した後植林せずに放置しているものや、東南アジアの熱帯林を乱伐してプランテーション化した農園で作られたアブラヤシ(パーム油の原料)の殻で発電しているものもあり、環境への負荷は極めて大きい可能性があるといえます。

#### ☆環境に配慮した電力会社を選ぶために・・・

ここまで環境に配慮した電力会社を選ぶためのポイントを説明してきましたが、電源構成をみるためには、電力会社が**情報開示**していることが大前提です。経済産業省資源エネルギー庁は、電源構成を開示することを**努力義務**としておりますが、現時点で電源構成を教えてくれない電力会社も多くあります。消費者が安心して安全な電気を選ぶためにはしっかりと情報開示が求められます。ホームページ等で開示しているところもありますので、**きっちり情報開示している電力会社を比較して選択する必要があります。**